

# 市長が行く

No.12

茂原市長 田中 豊彦

## 違いを超えて（衆議院選挙に向けて思うこと）

衆議院が解散され、今月は総選

挙に向けて、慌ただしい月になります。先進国の中でも800兆円とも1000兆円ともいわれている巨額の負の資産をかかえた中で、超高齢社会を迎えている日本にとって、大切な選挙です。

それにしても、いつも思うことです。各政党は相手を攻撃することばかりに夢中で、相手に何かミスがあれば自分の手柄のように喜び、いかにして相手に反対することばかりにとらわれているように見えます。年金問題などの重要な課題を一步でも解決に向けて進めていくためには、足の引っ張り合いではなく、お互いに議論を重ねながら、合意点を見つけていくということが大変重要だと考えます。

それぞれのマニフェストはマニフェストとして大事にしながら、国民が望む重要施策を実施するためには、妥協もいとわないといふ姿勢がこれからは大切なではないでしょうか。「国民のために」ということを、口先だけでなく本当に実行していくのなら、「党議拘束」とらわれることなく、政党や会

派を超えて、個が自由に発言でき、協力しながら合意形成を目指す」ということをしていかない限り、たとえ政権が替ったとしても良い結果は得られないと思います。

そしてそれと同時に、私たち国民も目的のある重要施策には、税を負担することもやむを得ないと覚悟が必要だと思います。ただ選挙に勝つために、国民の税負担を軽減することを公約に掲げる政治家も見受けますが、それは負の資産を将来世代に先送りすることに過ぎません。

アメリカの経済学者ブキャナンは、「民主主義の失敗として、国民は歳出拡大には寛容だが、増税には厳しい態度をとるため、財政赤字が増える」と主張しています。これは今の日本の状態です。ここで、政治を行っていく者と国民との間に、対立ではなく、理解と協力が必要なのです。

